

宿題、終わりました

6月29日、成田からジュネーブに飛び、シャモニに入って、7月4日、無風快晴という天気恵まれて、モンブランの頂に立つことができた。4度目の正直であった。

初めてのモンブランへのチャレンジは1990年8月のこと。いま飛ぶ鳥も落とす勢いの野口健君を同行したのもこの時だ。ぼくは残念ながら体調を崩したAさんと途中下山してしまったので、野口君は技術委員長としてがんばってくれている金澤和則君と一緒に登ってくれた。

2回目は93年、この時も不調者が出て、途中下山。3回目が昨年7月、登れた人もいたし、登れなかった人もいた。登れなかった理由は、本人の体力不足、気力不足もあったと思うが、現地のフランス人ガイドのホスピタリティ不足も大きく作用していた。

テートルース小屋に入っても、我々客である日本人のことは眼中にないようで、自分たちだけでワインを飲んで盛り上がっている。挙句の果てに、明日の朝は天気が悪いという予報が出ているから出発は7時ということになる。朝5時に出る準備をしておいて、天気が悪いから出発を遅らせるなら納得できるが、予報だけで出発7時というのでは納得できない。日本人ガイドのアドバイスや我々の希望に耳も貸さないのである。日本人客を登らせてやろうという熱意や誠意は全く伝わってこない。

グーテ小屋に上がり、モンブランの頂をめざしたが、半数が天気のいいうちに小屋に戻れないからという理由で引き返した。テートルース小屋を5時に出ていけば、登れなくても納得した登山になったと思うが、7時出発のことだけでなく、持っていき場のない不満を抱えて07年のモンブランにチャレンジは終了した。

その年の暮、水沢山に登った時、モンブランにご一緒して不成功に終わったGさんから、再チャレンジのお誘いを受けたのであった。

「行きましょう」、ぼくは即答した。その時点では来年の7月6日～16日の間、「ドロミテのフェラータとグロスグロックナーにチャレンジ」が決まっていて、Gさんも申し込んでいたから、その前の一週間、モンブランに充てることにして、冒頭に述べたように6月29日、成田を発ったのだ。

ヒョウタンからコマが出たような計画ではあったが、旧知の国際ガイド、長岡健一君にモンブランガイドをお願いして4808mの頂へと引っ張り上げてもらった。山頂ではうれしかったというより、積年の、数えてみたら18年もの間やり残していた宿題をようやく片付けたという感慨に浸った。その甲斐あってか、無風快晴、アルプスの山々が手に取るようだった。

ドロミテでのフェラータは青空の下、満喫できたが、グロスグロックナーは雷雨のためエルツァンヨハンヒュッテに一泊し、引き返した。

また、宿題を出されてしまった。